



新たな観光立国に挑戦

訪日外国人客のニーズを掴もう
国主導で“50兆円産業”に成長へ

デービッド・アトキンソン氏 小西美術工藝社代表取締役会長兼社長。政府・観光ビジョン構想会議委員。京都国際観光大使。1965年イギリス生まれ。元ゴールドマン・サックス証券 Partner。伝説の金融アナリスト。2006年裏千家茶名「宗真」を拝受。著書に「新・観光立国論」(東洋経済新報社)



赤羽 アトキンソンさんは、明日の日本を支える観光ビジョン構想会議の一員として、わが国の観光政策の立案に大きく貢献していただいておりますが、訪日外国人数は、年々増加し、2016年は2000万人を大きく超えましたが、今後の見通しは如何でしょうか？



アトキンソン 私は、政府が本来目標とすべき訪日外国人数がもっと多くてよいと思います。2020年までに4000万人ではなく、5600万人が適切であり、十分実現可能です。欧米などの先進国には、日本に一回も訪れていない人たちが多くいます。世界の観光客数は11億3300万人に達し、欧州の観光客は5億7500万人です。それなのに欧州からの訪日観光客はたった106万人、全体の0.2%です。



赤羽 潜在需要はまだまだあるということですね。



アトキンソン 中国への観光客数は5569万人、スペインは6060万人ですから、世界的に見れば、全く驚く数字ではありません。日本はアジアの中心的な先進国で、アジアの観光市場における競争力はとても大きい。日本の地方には手付かずの自然が豊かに残り、歌舞伎や三味線など伝統的文化も豊かです。さらに和食が世界無形文化遺産に登録されるなど、観光資源をあげたらきりがありません。「観光大国」になり得る国だと確信しています。日本が持つ魅力を磨き、世界に発信すれば、訪日外国人観光客はもっと増えるはずですよ。



赤羽 具体的に魅力を磨くとは？



アトキンソン 観光客のニーズを踏まえ、十分に楽しんでもらえる工夫をすることです。例えば、ハイキングや自然鑑賞をしたいのに、国有林が立ち入り制限されている場所があります。また、文化財保護に重点が置かれているため、観光客が文化や歴史を学ぶ場合も、現地には入れないようなこともあります。外国人が気楽に訪れて、日本の伝統芸能や歴史を学べる施設も不十分です。



赤羽 日本の観光は、これまで「一泊二日」を基準としたビジネスモデルが主流で、何日も滞在し、じっくり観光を楽しんでいただける長期滞在型対応には遅れているのが実態だと思います。



アトキンソン 外国人観光旅行客は、欧州からであれば飛行機で約12時間もかけて来日し、交通費だけに何十万円もかけていて、日本人に比べ長い日数を観光地で過ごすのが普通です。時間と費用をかけて来たのですから、その土地の魅力を存分に楽しみ、再び来たいと思ってもらえるような余韻を残す、そういった魅力を開発しなければならないのです。



赤羽 公明党は、経済再生と地方創生をめざす中で、観光産業を重要な成長産業の柱と捉え、観光立国推進本部を立ち上げました。国はこれまで「観光は民間がやるもの」と思ってきましたが、観光産業を確実に成長させれば、雇用を創出し、所得が増え、国民生活を豊かにできると思います。観光立国を実現するために、政治がやるべきことは何でしょうか？



アトキンソン 観光立国をめざすには、あらゆる省庁の協力が必要です。従って、国として方向性を明確に示すことが重要です。観光業は裾野が広く、成長すればGDPの約10%に当たる50兆円規模になるはずですよ。重要なのは適切な目標の設定です。例えば、国別の観光客数の目標設定が大事です。同時に、日本のブランドイメージづくりにも必要です。日本が海外に発信している内容は「おもてなし」や「着物」「桜」などですが、これは必ずしも外国人観光客の求めているものではありません。「日本に来たら、あなたはこういう楽しいことができる」と具体的な内容をアピールすべきで、これは国の仕事であると思います。



赤羽 公明党は、何事においても現場からの目線を大事にしています。外国人観光客に楽しんでもらい、さらに日本への理解を深めてもらうためにも、観光業の現場の目線を大事にしていきたいと思っています。



アトキンソン 私は昨年、全国各地で観光振興に関する講演を行いました。地方は「地方経済の活性化は観光振興しかない」という思いで必死になっています。政府の方が遅れていると感じています。その中で、公明党の役割は重要です。日本の真の観光立国の推進に不可欠な、現場目線、国と地方のネットワークを持つ公明党に大いに期待しています。

赤羽NOW vol.53

公明党衆議院小選挙区兵庫第2総支部ニュース 2017

赤羽かずよしの神戸ビジョン

2017年—「神戸開港150年」を迎えました
異国情緒ある街並み 活気ある港の荷揚げ 移民船を見送る人々
洋服 映画 洋食 洋菓子 等々の発祥の地 進取の気概に溢れた神戸
日本でイチバン 人モノ お金 情報が集まる街
活気にあふれた当時の神戸は 日本中の憧れの的でした

そして現在—少子高齢化と人口減少という大きな課題に直面するなか
東京の一極集中を解消し地域に活気を取り戻すことが何より大事
今こそ 開港往時を彷彿とさせる神戸の創生が必要です
美しい山並みと豊かな海 愛する神戸の街を
新産業群が集まり 新たな仕事生まれ 多様な人材を育む街へ
医療や介護が何処よりも安心 教育・子育て環境は抜群！
神戸に住む誰もが 誇りを感じることができる街へ
世界中の人々が 住みたくなる 働きたくなる
世界一魅力あふれる都市・神戸を皆さんと実現したいと思います

兵庫2区(兵庫区・北区・長田区)
衆議院議員 赤羽かずよし

神戸創生ビジョンその1
物流インフラ整備
世界に冠たる神戸港の復活、関西国際空港との一体化で神戸空港の国際化、新神戸・三ノ宮神戸空港間の鉄道直結、本年度事業化が決定した大阪湾岸道路西進部の早期完工を実現し、世界水準の物流拠点都市・神戸を目指します。

神戸創生ビジョンその2
神戸の魅力発信
日本三古泉の有馬温泉、姫路城、淡路島、城崎温泉等の観光連携や淡路・瀬戸内クルーズ振興、兵庫運河や六甲山の整備を進め、神戸中央卸売市場から地産地消の食材を提供し、神戸ビーフ・シニョーズ・パール・洋服・スイーツ等の神戸ブランドの魅力を世界に発信します。

神戸創生ビジョンその3
産業集積 人材結集
新幹線等のインフラ輸出、神戸伝統の製造業支援、スーパーコンピュータと理化学研究所等の連携による先端医療産業や自動走行等の次世代カー関連産業、ロボッツ(災害・介護)、航空機産業等の新産業群を創出し、国内外の一級の人材が集まる都市・神戸を目指します。

神戸創生ビジョンその4
世界に誇る防災都市
神戸創生ビジョンその4
防災・減災政策を進め、安全・安心な神戸の街を再生します。阪神・淡路大震災の教訓を生かし、様々な災害対策の研究機関・防災の専門家育成機関である「防災庁」を創設し、首都機能の代替拠点として、世界に誇る防災都市・神戸を目指します。

神戸創生ビジョンその5
日本一の教育・子育て環境
給付型奨学金や無利子奨学金の導入で教育費を負担軽減し、学校の冷房導入や教育のIT化を進め、日本一良質な教育を提供します。保育所の増設、保育士の待遇改善を進め、日本一子育てのしやすい都市・神戸を目指します。



働きながら子育て真っ最中の若いお母さん達から要望を伺う



集中豪雨による武庫川の氾濫現場に芦田兵庫県議、堂下神戸市議と直行



インドのモディ首相、安倍総理の新幹線工場(兵庫区)視察に同行



有馬温泉観光協会・當谷名誉会長と観光政策を議論(太閤橋にて)



安倍総理、日本港湾運送協会・久保会長等と神戸港視察



赤羽かずよし公式ウェブサイト
www.akaba-now.com



facebook
www.facebook.com/akabakazuyoshi/



twitter
@AKBhyogo2ku



●平成5年衆院選に初当選以来、現在7期、58才 ●衆院予算委員会理事、同災害対策特別委員会理事
●公明党政務調査会会長代理 ●財務副大臣、経済産業副大臣兼福島原発事故現地対策本部長等を歴任
●慶應義塾大学卒、三井物産(株)勤務(台湾国立師範大学留学、北京・南京駐在) ●ラグビー元全日本高校選抜